

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第十四主日礼拝のしおり

2021年8月29日

前奏：

聖名による挨拶

牧師：父と御子と聖霊の御名によって。アーメン。

会衆：アーメン。

牧師：主よ、わたしのくちびるを開いて下さい。

会衆：そうすれば、私の口はあなたのほまれを告げるでしょう。

一同：父と御子と聖霊の神に、栄光が、初めにそうであったように、
今も、そしてとこしえまでもありますように。アーメン。

招きのことば：詩編16編1-2,5,8-9節

神よ、守ってください。あなたを避けどころとするわたしを。

主に申します。「あなたはわたしの主。あなたのほかにわたしの幸いはありません。」・・・

主はわたしに与えられた分、わたしの杯。主はわたしの運命を支える方。・・・

わたしは絶えず主に相対しています。主は右にいまし、わたしは揺らぐことはありません。

わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。

アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も礼拝に導いてくださりありがとうございます。私たちは共にあなたの御言葉をいただいて新しい一週間を始めます。

あなたは私たちの心の深みまでご存じで、私たちを本気で大切に、私たちのすべてを赦し、私たちをまっすぐに建て上げてくださいます。私たちが外面だけにこだわって無難で体裁のよい歩みに偏らないように、あなたは私たちが本音(ほんね)で喜び、人々の幸せを作り出し、あなたを待ち望むように、今週もイエス様によって生かしてください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。このために力になってくださった方々を祝福してください。

新型コロナウイルスの感染が拡大しています。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヤコブ 1章 17-27節

良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。御父には、移り変わりも、天体の動きにつれて生ずる陰もありません。御父は、御心のままに、真理の言葉によってわたしたちを生んでくださいました。それは、わたしたちを、いわば造られたものの初穂となさるためです。わたしの愛する兄弟たち、よくわきまえていなさい。だれでも、聞くのに早く、話すのに遅く、また怒るのに遅いようにしなさい。人の怒りは神の義を実現しないからです。だから、あらゆる汚れやあふれるほどの悪を素直に捨て去り、心に植え付けられた御言葉を受け入れなさい。この御言葉は、あなたがたの魂を救うことができます。御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。御言葉を聞くだけで行わない者がいれば、その人は生まれつきの顔を鏡に映して眺める人に似ています。鏡に

映った自分の姿を眺めても、立ち去ると、それがどのようなものであったか、すぐに忘れてしまいます。しかし、自由をもたらず完全な律法を一心に見つめ、これを守る人は、聞いて忘れてしまう人ではなく、行う人です。このような人は、その行いによって幸せになります。自分は信心深い者だと思っても、舌を制することができず、自分の心を欺くならば、そのような人の信心は無意味です。みなしごや、やもめが困っているときに世話をし、世の汚れに染まらないように自分を守ることに、これこそ父である神の御前に清く汚れのない信心です。

福音書朗読：マルコ7章1-8, 14-15, 21-23節

ファリサイ派の人々と数人の律法学者たちが、エルサレムから来て、イエスのもとに集まった。そして、イエスの弟子たちの中に汚れた手、つまり洗わない手で食事をする者がいるのを見た。——ファリサイ派の人々をはじめユダヤ人は皆、昔の人の言い伝えを固く守って、念入りに手を洗ってからでないと食事をせず、また、市場から帰ったときには、身を清めてからでないと食事をしない。そのほか、杯、鉢、銅の器や寝台を洗うことなど、昔から受け継いで固く守っていることがたくさんある。——そこで、ファリサイ派の人々と律法学者たちが尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか。」イエスは言われた。「イザヤは、あなたたちのような偽善者のことを見事に預言したものだ。彼はこう書いている。『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとしておしえ、むなしくわたしをあがめている。』あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」・・・それから、イエスは再び群衆を呼び寄せ言われた。「皆、わたしの言うことを聞いて悟りなさい。外から人の体に入るもので人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが人を汚すのである。」・・・中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである。みだらな行い、盗み、殺意、姦淫、貪欲、悪意、詐欺、好色、ねたみ、悪口、傲慢、無分別など、これらの悪はみな中から出て来て、人を汚すのである。」

説教：「人間の心から悪い思いが出てくる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

現代人は忙しいと言われます。期日や約束に追われてあくせくします。家族、近隣、友人、学校、職場、サークルなど、同時にいくつものグループに属していて、けっこう複雑な時間の使い方をしていますね。反対に何もすることがない、ということは充実していない日々だと思いついで、単調な日にも自分を忙しくすることで時間を埋めるということもあるようです。もしかしたら心に余裕があると、せつかく忘れようとしていた不安がまた押し寄せてきたり、自分のふがいなさや苦々しい人々のことが心に広がってきそうで、それらが出てくる機会をつぶすために何かで心を忙しくしておかなければならない、という錯覚をもっている人もあるのだそうです。これは少し意外な感じですが、割合あたっているみたいですね。

イエス様は私たちに、本心からの喜びや安心を与え、人々の幸せを作り出す生きがいや、神さまを待ち望むやわらかい心を私たちのうちにつくってくださいます。イエス様のことばに聞きましょう。

1) 大切なことを見逃していた人々

今朝はマルコによる福音書7章から読まれました。少しものものしい始まり方です。都エルサレムからいなかのガリラヤ地方に、一群の人々がわざわざイエス様のところに来ました。当時のイスラエルの人々の生活を導く先生とされていたファリサイ派の人々や、神様に喜ばれる生き方を教える旧約聖書と言い伝えに精通した律法学者といわれる人々でした。人々の間にはいったい何が起こるのだろう、とかたずをのむような空気が流れます。この人たちは自分たちを立派な人だと思っていました。それでイエス様と弟子たちの在り方にクレームをつけ、人々の信頼を奪って、イエス様を失脚させようとして、泊りがけの旅をしてまでガリラヤ地方まで来たのです。

チャンスはすぐに来ました。イエス様のお弟子たちの中に食事前に手を洗わない人がいたので、彼らを見逃しませんでした。衛生的に不潔だから注意深く手を洗う、という常識は今も当ても大切なことです。けれどもここで彼らの取り上げたことにはもっと深い意味がありました。イスラエルの人々は自分たちが神様から選ばれた神の民として、外国の人や罪深い人たちと何らかの接点があるかもしれない市場にいったら帰宅時に念入りに手を洗いお風呂に入ってから食事をしました。口から入るものは特に注意しました。折に触れて食器や寝具などを洗いました。普通の人々と一緒にならないため、イスラエルの人々が神の民であるという自覚がなくなってしまうように、生活の中でいろいろな工夫していたのです。この人々はそのような言い伝えを詳しく知っていて、人々が守るように教える立場にもありました。

そのような背景がありますから、イエス様のお弟子たちが手を洗わずに食事をしているのを見て、彼らはイエス様に尋ねました。「あなたの弟子たちは手を洗わないで食べている。昔からの言い伝えに従っていない。」彼らには、イエス様とのお弟子たちがイスラエルの神の民としての自覚の薄い人々で、民に悪い影響を与える人であろうと考えて、批判的な心で、少し軽蔑しながら、これでイエス様を困らせることができると思って尋ねたのでしょう。

しかしイエス様はパリサイ人や律法学者の人々が、外面的なことだけにとらわれてしまって、ほんとうに神の民として歩むことから離れてしまっていることを知っていました。神様はわたしたちに真剣に向き合ってくださいます。外面的、表面的な行動だけをきれいに保つことに慣れきってしまったイスラエルの人々は、自分たちでは神の民と自覚していても、神さまからみると建前の世界だけで生きていて、真実に神様と心の通い合う関係にはいなかったのです。

外面的なことを整えることが間違っている、ということではなく、人の教えを堅く守ることにだけ注目して、神の掟を捨ててしまっているということでした。これは受け継いできた言い伝

えによって神のこぼれを無にすることです。外側をきれいにするのは大切です。しかし外だけをきれいにするを考えて、神様と心の交わりをすることができなくなってしまいました。そんな根本的な問題があったのです。

2) イエス様の診断

それは人の心にずっとある傾向です。それで旧約聖書の預言者イザヤのこぼれをイエス様は引用されました。イザヤ書 29 章 13 節の「この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。人間の戒めを教えとしておしえ、むなしくわたしをあがめている」というみ言葉です。あなたがたは自分たちの言い伝えを大事にして神の掟をないがしろにしている、とも言われました。

そしてイエス様はこの機会をとらえて群衆を呼び寄せ、大切なお話をされました。外から人の体に入るものは人を汚すことはないが、人の中から出てくる悪い思いが人を汚します。外から入るものは人の心に入らない。食事の前に手を洗うか洗わないかで食べ物によって人が汚れることはない。それは消化されて排泄される。でも人を汚すのは人のうちにはじめからあるものです。みだらな行い、ねたみや盗み、あんな人いないほうがよかったのにという殺意や、簡単に人をだましたり、自分のプライドを満たすことだけに關心のある傲慢さ、自己中心のための無分別なふるまいなどはみな内側から出てきてその人をおとしめる。この本音の問題こそ神様の民が神様に取り扱っていただくべきことだ、と言われました。

私たちは忙しくしています。そして次から次へと判断したり相談したり行動したり反省したりして心の外側のことを整えようとがんばっています。人からどう見られているかを気にするのも外側のことです。これらは大切なことですし常識です。しかしイエス様がおっしゃっているのはそのことのために神様のおきてを忘れていないでしょうか、ということです。神様は神様の民を大切にされました。宝の民として愛してくださいました。民は神様を喜ぶことで成長します。また互いに役にたつ役割をもって仕え合い、何か問題や試練があっても苦しみから逃げることなく神様のみわざを耐え忍んで待ち望む信頼と交わりの中で成長するのです。神様は私たちを洗礼によってイエス様と結び合わせて下さって、神様の子どもにしてくださいました。その私たちが外面だけにとらわれて、静かな時間をつくって神様と十分に交わることもなく、神様のみ言葉にひたることもなく、ゆっくり本音でいゆることもなく、自分を見失っていると、それは神様をも見失っていることになるのです。外側は立派で、堅実で、誠実でも、むなしく神様をあがめている、という生活に陥っているのです。

3) 静まって神様と交わる

イエス様が引用されたイザヤ書の少しさき、30 章 15 節ではイスラエルの聖なる方、主なる神様がイスラエルの民に「お前たちは立ち返って静かにしているならば救われる。安らかに信頼していることにこそ力がある」と言われています。今朝、神さまはみ言葉をもって私たちにもお語りくださっています。

外側のことを整えることだけに心奪われているとき、できる自分をおごり、できない人を軽蔑します。むしろ静まって神さまのみ言葉に聞きましょう。私たちの内側から悪い思いがこみあげてくるという、どうにもならない現実を目をとめましょう。神さまはイエス様によってその私たちを赦してくださいます。イエス様はそのために来てくださいました。罪びとの友となり、罪びとである私たちの代わりにきよい生涯を生きて、罪びとの死の裁きを身代わりに受けてくださいました。またその救いが本物であったことを復活によって示してくださいました。何か追われていると焦る心の原因は自分の思いです。イエス様はそのままですべてを赦してくださいました。あなたにも、弁解しないで、罪びとであることを認め、イエス様の赦しをあなたへの約束として神様の憐みを待ち望む信仰が与えられます。あなたの罪を赦すためにきてくださったイエス様のゆえに、あなたは落ち着いて、そして神様に立ち帰って静かにすることができます。そこに赦しの安心があるからです。そして赦された喜びがあるからです。そこにイエス様への信頼、み言葉の約束への信頼があるからです。自分の心が責めても、イエス様の赦しの約束を信頼する、この信頼を信仰と呼んでいます。信仰には心から湧き上がる底(そこ)力があります。自分の思いと言葉と行いが変えられる力があります。毎日を変える力、世界を変えていく本当の力があります。

神さまが与えてくださるのは、パリサイ人や律法学者のように外面的な従順や真面目さだけを強調するむなし礼拝ではありません。礼拝において神様はあなたと形式的なやりとりをするのではなく、本当のあなた、あなたの内側、あなたの心を開いて、あなた自身に触れてくださいます。私たちは神様のみ言葉に照らされて、私たちの内側からこみあげてくる汚れを認めます。命をかけてあなたを赦し、新しくして下さるというイエス様の約束に信頼します。そしてその喜びによって新しい命が訓練されていく信仰者として歩みます。

内側からこみあげる喜びは、隣人の幸せをつくる毎日と未来の生きがいを生み出します。あなたはこの一週間、予定や計画に追まわられて生きるのではなく、安心し喜びをもって、どのように人々の幸せをよりよくつくることができるか落ち着いて工夫をします。見返りやよい成果のあるなしに影響されないイエス様によって与えられる喜びが生み出す生きがいです。それは訓練されて天井知らずの成長をします。また、試練のときにも、神様がこのことを通して与えて下さる気づきや祝福を忍耐して待ち望む堅固な信仰を内につくってくださることを期待するのです。試練は苦しいですが、形式的にはなく本音のところで、我が子として鍛えて下さる神様のご配慮を見ることができます。教えられやすい心で歩むことができます。

忙しい毎日、また忙しくしている毎日、人々の間ですり減って生きなければならない毎日ですが、その中であなたの内側を開き、そこに赦しといのちを与えて下さるイエス様を大切にしましょう。罪赦された神さまのこどもとして、安心して喜び、人々の幸せを作り出し、主を待ち望んで歩む一週間は歩みましょう。

「あなたたちは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている。」マルコ7:8

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌：527番

1. わがよろび わがのぞみ わがいのちの主よ 昼たたえ 夜うたいて なお足らぬをおもう

4. 主の御顔のやさしさに みつかい喜び 御言葉のうるわしさに あめつち歌えり

5. ならびもなき 愛の主の み声ぞうれしき わが望 わが命は 永久に主にあれや **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。

みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。

われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 541番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えされ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこい願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏